

佳作

花火の中のゴミの中

神奈川県 鎌倉女子大学中等部一年 中筋 沙織

八月二日。私の祖母の住む江ノ島で毎年花火大会が行われます。今年も少し曇っていましたが、例年通り行なわれ、たくさんの人出があり、五千発の花火を私も家族と楽しみながら見ました。

花火の夜、祖母の家に泊まり、朝、目を覚まして窓の外を見ると、少し霧が出ていました。海をぼんやりながめていると一つの事に気がつきました。前の夜から寝ないで遊んでいたと思われる若い人達が、大きな声でさわいでいる周りは昨日の見物客の残っていたゴミが山になっていました。その景色を見てみると昨日の楽しかった気持ちが少し残念な気持ちになりました。

江ノ島の朝は歩いたり、犬の散歩をしている人が多くいますが、そうした人も少しゴミをよけながら歩いていました。そのゴミを「いったいどうするのだろうっ」と

と不安に思っていると、おそろいの黒のジャツを着た何人かの若者や中高年の男女の人達が、大きなゴミ袋を持ってきて、もくもくとゴミを拾い始めました。三十分の間、皆一生懸命に拾い続けていました。ボランティアの人だと思えます。毎年花火大会の次の日の朝は、このような事が行なわれているのです。

祖母の家はマンションの七階なので「すごい人達がいるなあ」と思ってた私は窓からその様子をずっと見ていました。その姿を見ると、とても複雑な気持ちになりました。拾っている人、拾っている横でまださわいでいる人、そしてただ見ているだけの私。拾っている姿を見てとても感動しているのに、手伝いに行けなかった自分をとても反省します。

でも今日のこの気持ちを大切にしたいと思いました。すぐに手伝うということは、少しはずかし

くてできないかもしれませんが、まず自分からゴミは出さない、小さなゴミは自分から進んで拾う掃除をしてくれる人に感謝する、少しずつですが私も皆のために何か役立つ事ができるように努力していきたいと思えます。学校の掃除や家のお手伝いも、人から言われてやるのではなく、自分から進んでやるうと思えました。

今日はきれいな花火、すてきな人達を見ることができて、二回の感動を味わうことができたとても良い一日でした。もし来年も花火大会を祖母の家で見ることができたら、海岸の掃除のボランティアにぜひ参加しようと思えます。

